

まちに生きる、まちを活かす。 小高の人びとの情熱が個性豊かなまちを築く。

先人たちの知恵や夢、そして情熱。
それぞれの時代に生きてきた勇壮な人々の熱い想いが、未来の扉を開いてきた。
そして今、さまざまな町民が新しい小高のまちづくりを真剣に考え、魅力に満ちた未来を生み出そうとしている。



生卵を並べて巨大なアートを作成（平成12年）

平成十二年の「巨大エッグアートへの挑戦で、第十五回目を迎えたこの「ギネスに挑戦」は、小高町民の熱い想いと、記録達成にかける情熱がほとぼりする小高ならではの季節の風物詩として定着している。

町民が一体となり世界一をめざしギネスに挑戦
青い空の下に、町民たちの喚声が響きわたる。毎年十一月の第二日曜日に小高町文化祭事業の一環として行われる「ギネスに挑戦」がはじまったのは昭和六十一年。一回目



全長15メートル、幅4メートルの宝船（平成11年）

の「ジャンボのりまき」では、沿道につめかけた観衆の声援を受けながら、長さ八六二メートルの記録を達成。また、平成五年の第八回大会では、直径七・六メートル、重量四・六

トンのジャンボフライパンで、金粉入りのジャンボやきそば三〇〇〇食に挑戦するなど、そのユニークな発想と旺盛なチャレンジ精神で話題を集めている。

【小高町のコミュニケーションマーク】



おだか

人うごき 心うこかす 本気まち

コミュニケーションマークの意味

- ・このマークは、小高町が将来（明るい未来）に向かって羽ばたくことをイメージしたものです。
- ・「鳥の羽」をモチーフにしたことで、軽やかな動きを感じさせ、繊細さや人の温かさ、動きの楽しさを感じさせるマークにしました。
- ・このマークは、見方によっては「？」や「！」にも見えるようになっていました。これは、小高町がいろいろなこと挑戦し、課題を解決しながら前進し、新しい感動や驚き・ひらめきを感じていけるといった、感性の豊かな町を目指していくことを表現しています。
- ・このマークのブルーは、「澄みきった小高町の空の色」であり、「穏やかな海の色」でもあります。ブルーの中でもひととき知的的で、かつ挑戦していく意志の強さを表したブルーです。

CI計画など町民主体のまちづくりの数々

小高町では、町民みんなの力で、もっと魅力的なまちづくりをとの考えのもと、平成十二年度に地域CI活動に取り組んだ。CI町民会議や、まちづくりパネルディスプレイ

シヨンなど町民主体のCI活動により、新たな小高町のシンボルマークやスローガンを決定。小高人の情熱と創造力は、「浮舟まつり」などの新しい文化を生み出すとともに、このCI活動により、小高町の輝かしい未来づくりへと着実な歩みが続いている。



CI町民会議でのシンボルマークの検討



浮舟まつり



いい汗かこうおだかまち大会